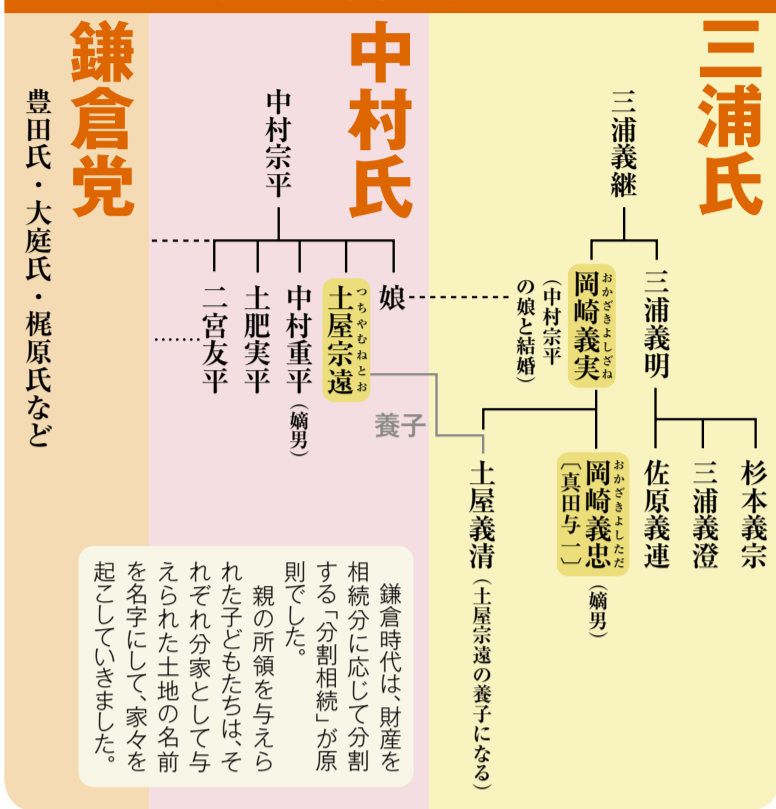


相模の3大武士団略系図 ※系図には諸説あります



▽広範囲に勢力を広げていました。三浦一族には平塚の岡崎義実・真田与一親子らがいます。
中村一族は大磯丘陵付近から湯河原町まで、相模国の西半分は勢力を広げていました。本拠地があったのは、小田原市小竹の中村館といわれています。平塚の土屋宗遠は中村一族の中村宗平の三男です。

幕府創設に重要な役割

「相模の武士は非常に実直で、真直な印象がありますね」と話す、市博物館の栗山学芸員。「政治工作など、いわば、お互いがだまし合いをするという世界は苦手だったのでは

鎌倉党には豊田に館を構えていたと考えられる豊田景俊や、後に頼朝の重鎮となった梶原景時がいます。県の中央部一帯に勢力を広げていましたが、頼朝の挙兵後は源平双方に分かれて戦いました。
平塚と関わりの深い三浦一族と中村一族。岡崎義実が中村宗平の娘と結婚し、また義実の子どもを土屋宗遠の養子にしたことにより、三浦氏と中村氏の間には強い結びつきができました。平塚市は、地理的に相模国の中心に位置します。相模国という大きな狙いを定めて、中心にある平塚を射った三浦・中村一族。彼らは相模国全体に大きな影響を与えました。

「清盛」の側近にも関係!?

NHKで現在放送中の大河ドラマ「清盛」。その中で、清盛の側近として仕え、清盛の死をみとつたといわれる平盛国が登場します。序盤では、鱈丸という名前が俳優の上川隆也さんが演じていました。

壇ノ浦の戦いで滅亡する平氏。平家の棟梁・平盛とともに鎌倉に送られた盛国を預かったのが、岡崎義実でした。盛国は日夜一言も発せず法華経に向かい、断食を続けた後に74歳で死んだ、と吾妻鏡の文治2年(1186年)7月25日にあります。
大河ドラマ「清盛」でも準主役級の位置付けにあり、大きな存在感を放つ盛国。義実とのつながりに思いを馳せながら大河ドラマを見るのも、楽しいかもしれませんね。

悪四郎と呼ばれた男

「悪四郎」の異名を取る義実。悪とは「勇ましくて強い」という意味で、名前からも義実の武士としての勇猛な気性がうかがえます。
義実は一人、三浦一族の拠点から

岡崎義実

1112年(1200年)

ないでしようか」と分析します。事実、鎌倉幕府に貢献した岡崎氏や土屋氏ですが、最終的には政治の才と手腕にたけた北条家に牛耳られてしまっています。
栗山学芸員は「平塚の武士らは舞台上に派手に登場するわけではないので、ちょっとマイナーなイメージ

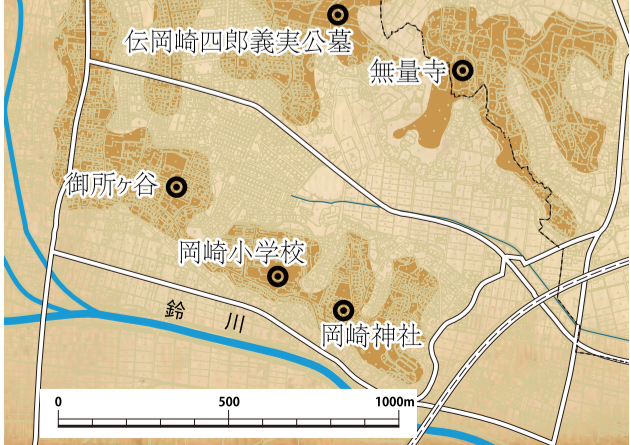
があるかもしれませんね。歴史で注目されるのは、もっぱら学校の教科書で詳しく習う人物ですから」と話します。
「しかし、教科書の登場人物が全てではありません。平塚武士の活躍は、鎌倉幕府の創設に重要な役割を果たしていたんですよ。」

岡崎城解説



「お城が好き」栗山学芸員の「城」が好きな栗山学芸員の「岡崎城解説」
岡崎城は、現在の平塚市と伊勢原市にまたがる、広い領域にあったと考えられます。相模川の最下流にある沖積低地を見下ろせるため、相模国全体に影響を与えられる重要な場所でした。
平安時代末期に義実が館を建て住んだのが、岡崎城の始まりと考えられています。城主の変遷は史料がないためはっきり分かっていません。岡崎城は、小田原北条氏が台頭する戦国時代には、城の役目を終えていたと考えられます。
しかし岡崎城は相模国を代表する城の一つとして、近世の国絵図にも「古城」として記されることの多い名

離れた平塚の岡崎に館を構え、周辺の開拓を任せられました。のちに中村一族の中村宗平の娘と結婚し、岡崎から程近い土屋宗遠とは義兄弟の間柄になります。
義実が、頼朝の挙兵時にはすでに60歳を超えた老武者でした。親子で参戦した石橋山の戦いでは、大切な嫡男の真田与一を失ってしまいます(詳細は4面の真田与一の項目で)。慈悲深く人情に厚い、義実の性格がうかがえる逸話があります。与一城としては一体のものだと考えてよいでしょう。
無量寺の西南近辺の御所ヶ谷では、義実の時代のものと思われる区画の溝があり、館跡と思われる遺構が見つかっています。岡崎小学校周辺の発掘では、義実の時代の高級な陶磁器類が出土しています。こうした高級品は、岡崎氏が支配層の武士だったことを表しています。
岡崎城跡全体では室



▲岡崎公民館のロビーに飾られている岡崎城の図

を討った長尾定景を、頼朝から委ねられた義実。憎き敵であるものの、生来の慈悲深さから殺すことはできず、義実はただ囚人として預かっていました。毎日法華経を読み続ける定景。その姿を見て、とうとう定景のことを許します。吾妻鏡の治承5年(1181年)7月5日には、定景を許してやりたいと、義実が頼朝に申し出たという記述があります。
岡崎の無量寺近くには義実の墓と伝えられる場所(左地図)が残っており、今でも地元の人たちに大切に守られています。

町時代の形なのですが、堀や陶磁器など、義実が生きた平安末期から鎌倉時代の断片的な史料も集まっています。これからの調査・発掘に期待が寄せられます。